



平岡公園小だより

特別号

令和8年(2026年)

10月30日発行

【家庭数配付】

TEL: 011-885-9414 FAX: 011-885-9042

学校ホームページ <https://www.hiraokakoen-e.sapporo-c.ed.jp/>

学校メールアドレス hiraokakoen-e@sapporo-c.ed.jp

(メールは、転送電話切り替え時の緊急用にお使いください)

学校 HP はこちら



全国学力・学習状況調査の結果の概要について

全国の小学6年生を対象に4月23日(木)に行われました全国学力・学習状況調査につきまして、本校の結果の概要をお知らせいたします。今回の調査結果から課題を明らかにし、今後の学習指導等に生かしていきます。なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご留意ください。

Ⅰ 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語・算数)

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- 上記①と②を一体的に問うこととする

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2 実施日

令和8年(2026年)4月23日(木)

全国の平均正答率と比較して、以下の基準でお伝えします

- | | |
|--------------------|---------------------|
| ・+3.1ポイント以上 | ⇒上回っている |
| ・+3ポイントの範囲内で全国平均以上 | ⇒ほぼ同程度であるが、やや上回っている |
| ・全国平均と同じ | ⇒ほぼ同程度 |
| ・-3ポイントの範囲内で全国平均以下 | ⇒ほぼ同程度であるが、やや下回っている |
| ・-3.1ポイント以下 | ⇒下回っている |

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

	平岡公園小学校の <u>概要</u>	今回の調査結果の <u>分析</u>	<u>今後の方向性</u>
国 語	知識及び技能 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている。</u>	【国語科】 学習指導要領の内容別に結果を見ると、「情報の扱い方に関する事項」の項目が全国平均に比べ、ほぼ同程度であるがやや下回っていることが分かりました。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題があることが分かりました。 それ以外の内容に関しては、今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。	【国語科の課題をうけて】 目的や意図を明確にし、複数の記述や語句の関係を図示などに整理することを通して、考えをまとめる活動の充実を図っていきます。
	知識及び技能 「情報の扱い方に関する事項」 ・全国平均に比べ、 <u>ほぼ同程度であるがやや下回っている。</u>		
	思考力・判断力・表現力等 「話すこと・聞くこと」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている。</u>		
	思考力・判断力・表現力等 「書くこと」 ・全国平均に比べ、 <u>ほぼ同程度であるがやや上回っている。</u>		
	思考力・判断力・表現力等 「読むこと」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている。</u>		
算 数	「数と計算」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている。</u>	【算数科】 どの学習指導要領の領域に関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。「数と計算」・「図形」 「測定」の領域の問題は特にしっかりと力を付けていることが分かりました。 【教科全体】 ・評価の観点別の分析 各教科の観点別の総合結果では、国語、算数ともに「知識・技能の観点の問題」「思考・判断表現の観点の問題」のどちらも全国平均を上回っています。 ・問題形式の分析 選択問題・短答問題・記述問題のいずれも全国平均を上回っています。	【学習全般に関わって】 本校は、研究主題を『輝くひとみが溢れる学びのシンカ～「私」らしく刻む、学びのシンカの軌跡～』と設定しています。子どもたちが自己決定したくなるような授業の導入や、自己決定の余地がある学習場面、そして自己の変容を実感できるような授業展開を考えるなど、校内での授業研究や研修を通して、教職員の更なる授業力の向上を目指していきます。 主体的、対話的で深い学びによる授業を一層促進していくとともに、学びを実生活や次の学びに生かすことで、「本物の経験」を積んでいくことも目指していきます。 また、今後も一人一人の苦手意識や困り感に寄り添っていき、『個別最適な学び』につながる学習指導や児童理解に努めていきます。
	「図形」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている。</u>		
	「測定」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている。</u>		
	「変化と関係」 ・全国平均に比べ、 <u>ほぼ同程度であるがやや上回っている。</u>		
	「データの活用」 ・全国平均に比べ、 <u>ほぼ同程度であるがやや上回っている。</u>		

【児童質問紙による学習状況調査の結果】

日常の学習や生活についての学習状況調査は、全73項目のうち、本校児童と全国的傾向に大きな差異がみられる質問項目についてお知らせします

★ A:当てはまる B:どちらかといえば当てはまる C:どちらかといえば当てはまらない D:当てはまらない の4段階回答
A+B を肯定的な回答として比較しています。

肯定的な回答が多い項目

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？」
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか？」
⇒全国平均に比べ、上回っている

【結果の分析】

多様な考え方に触れ、自分との違いに気付いたり、自己の見方考え方が広がったりすることに楽しさを感じることができてきていると考えます。また、授業場面を通して、相手の良い考えを受け入れ自分に活かしていくといった相互承認の感度も高まっています。

前ページの「今後の方向性」にも記述したように、今後も教職員の授業力向上を図ったり主体的、対話的で深い学びによる授業をより一層促進したりしたいと考えます。

OICT 機器を活用することについての質問項目

- ・ICT 機器で文章を作成することができる
 - ・情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができる
 - ・情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる
 - ・ICT 機器を使って学校での活動で発表のスライドを作成することができる
- ⇒4つ全ての項目で
全国平均に比べ、上回っている

【結果の分析】

一人一台端末（タブレット）を効果的に活用してきました。特に、3年生以上の子は、スクールタクトを使うことで、自分の思いや考えを整理したり、友達の意見や作成したものを共有し、自分のまとめや発表に取り入れたりしています。また、タブレットやスクールタクトの使用が効果的だった授業場面を職員間で共有し、日常の授業へ生かせるようにしています。

今後も、効果的な活用の仕方を模索し、工夫して指導していきます。

「自分には、よいところがあると思いますか？」
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか？」
⇒全国平均に比べ、ほぼ同程度であるが上回っている

【結果の分析】

例年、肯定的な回答が少なかった項目ですが、昨年度から肯定的な回答が増えてきている項目です。公園小の子どもたちの素敵な姿をわたしたち教職員が進んで認め、子どもたち同士が認め合える雰囲気づくりを大事にしてきました。また、ふれあい活動や委員会活動など、相手のことを考えて創る活動では、相手が喜ぶ姿が自分たちの満足感につながるように、子どもたちを指導・支援してきました。日々の取組を通して自己肯定感や自己有用感が高まってきていると考えます。今後も指導・支援を継続していきたいです。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？」

⇒全国平均に比べ、上回っている

【結果の分析】

例年、この質問項目では全国平均を下回っており、日々の子どもたちとの関わりを通して信頼関係をつくったり、子どもたちの思いを受け止めることを通して一人一人に寄り添うことを大切にしたりしてきました。また、担任だけでなく、学年の先生や副担任、担任外など、信頼できたり身近に話すことができたりする大人を増やしてきました。そういった関わりが、子どもたちの安心感につながっていると考えます。

今後も、私たち教職員が相談しやすい雰囲気づくりや環境づくりに努め、子どもたちに寄り添っていきます。

本校の課題が見える項目

全国の平均と比べると課題の見える項目がありました。本校の毎年の課題なのか、現6年生の課題なのかを分析し、改善できるよう工夫していきます。

「5年生までにうけた授業では、国語の授業で、先生は、あなたのうまくできないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいましたか？」 ⇒全国平均に比べ、下回っている
「5年生までにうけた授業では、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか？」 ⇒全国平均に比べ、同程度であるがやや下回っている

【結果の分析】

学習活動によっては、「できた・分かった」を実感できていないことや粘り強く取り組めていないことがあることが分かりました。一人一人の苦手意識や困り感に寄り添って「個別最適な学び」につながる学習指導や児童理解に努めているところではありますが、スモールステップで取組んだり一緒に解決の方法を考えたりするなど、子どもたちへの支援の充実をより一層図ってまいります。